

くれよんだより

新年あけましておめでとうございます。

日に日に寒さが増す季節になりました。空気も乾燥しており、体調を崩しやすい時期です。健康管理を行い、毎日、元気に過ごしていきたいですね。

スタッフ一同、新たな気持ちでスタートいたしますので、今年もどうぞよろしくお願い致します。



溶連菌感染症について

溶連菌感染症とは、**A群β溶血性連鎖球菌**という細菌が喉や皮膚等に感染して起こる病気です。

A群β溶血性連鎖球菌とは…健康な人の鼻や喉、皮膚にもいる細菌の一種で、上気道炎の感染症や皮膚感染症を引き起こす。溶連菌は続発症としてリウマチ熱および、溶連菌感染後急性糸球体腎炎(PSAGN)等。咽頭炎が有名だが、とびひや蜂窩織炎(ほうかしきえん)等、様々な病気を引き起こす。

PSAGNとは…溶連菌に感染した後、体の免疫反応が腎臓の糸球体に炎症を起こす病気で、主に血尿(紅茶色)、むくみ、高血圧の3つの症状が現れる。感染から1~3週間後に発症し、小児に多くみられるが、適切な安静と治療で回復することが多い一過性の腎炎である。溶連菌感染後の尿検査は「PSAGN」の早期発見のため一般的に治療後 2~3週間頃に推奨されている。検査の目的は腎炎の有無の確認(血尿)をするが、異常がなくても後日発症する可能性があるため、体調変化に注意し、異常があれば速やかに医療機関を受診することが重要である。

- ・潜伏期間は、2~5日。
- ・感染経路は、飛沫感染と接触感染。
- ・症状は、急な発熱(38°C以上)、強い喉の痛み、頭痛等。
- ・治療法として抗生素の内服、処方された薬は必ず最後まで飲み切ることも重要。
- ・適切な抗菌剤治療開始後 24 時間以上経過し全身状態が良好であれば、登園・登校可能。



インフルエンザが流行っています

・インフルエンザA型は、高熱、悪寒、筋肉痛等、全身症状が出やすい傾向があり、鳥類やブタ等、ヒト以外の動物にも感染する。インフルエンザB型は、腹痛や下痢、吐き気等、消化器症状が出やすい傾向があり、ヒトにのみ感染する。

・潜伏期間は、48 時間~72 時間(2 日~3 日)。

・感染経路は、飛沫感染と接触感染。

・流行時期は、冬季を中心に晩秋から早春にかけて流行するが、通年性にウイルスが確認されている。最近では、夏季にもインフルエンザウイルスが検出されている。

・治療法は、抗インフルエンザ治療薬を 48 時間以内に開始する必要がある。例えば、**タミフル®**や**イナビル®**を使用すると、発熱期間を 1~2 日程度短縮し、症状を軽減する効果が期待できる。

・予防法は、**流行前の予防接種**が最も効果的。また、手洗いの徹底、咳工チケット、室内の室温(50~60%)と換気、十分な休養と栄養等の対策を組み合わせることが効果的。家庭内では、タオルや食器の共有は避け、触れる場所の消毒も有効。

・登園・登校基準は、**乳幼児**は発症後**5日**を経過し、かつ解熱後**3日**を経過するまで。

小学生以上は発症後**5日**を経過し、かつ解熱後**2日**を経過するまで。

・インフルエンザは急に38°C以上の高熱が出ることが多く、**熱性痙攣**を引き起こしやすい。発熱後、24時間以内の発症が多く、5分以内で治まれば比較的安全だが、15 分以上続く、繰り返す、左右非対称の場合は脳症の可能性もあるため、すぐに救急受診が必要。また、痙攣は治まっても**意識障害**(呼びかけに反応しない、白目をむく等)が残ることもある。発作時は、体ごと横にして唾液や吐物がのどに詰まるのを防ぎ、**誤嚥を予防**することが最重要。



冬のおすすめの絵本「しんせつなともだち」

雪の降る寒い日、子ウサギが見つけたカブを友達のロバ、ヤギ、シカへと次々に届けるお話で、親切心が巡り巡って最後にはウサギの元に戻ってくる心温まる友情の絵本です♪



お問い合わせはこちらまで

病児保育室くれよん

電話 0893-57-9377

ホームページ

<https://okubo-kc.jp/childcare/>